

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

### 興味をもつ、疑問に思う～見逃せない言葉～／誠心第一幼稚園

「子どもたちは、疑問や不思議なことに気付くと、『どうして?』と、大人に聞いて知ろうとする」という印象がありますか? この事例では、子どもたちが「なぜ?」「どうして?」を自ら考えようとしています。そして、自分なりに納得することを考え出していくやりとりが見えてきます。



### ● 飼育物との関わり<虫>／5歳児

#### ✦ 「何でここだけ?」

飼育箱の中のカブトムシの幼虫の様子を見ているAちゃん。

Aちゃん「何でここ（腐葉土のくぼんでいる所）だけ穴が開いているんだろう?」

保育者「何でかな?」

Aちゃん「土を食べちゃったんじゃないかな?」

幼虫の黒い点々は呼吸をする気門だと、図鑑を見て知っていたBちゃん。

Bちゃん「空気をこの穴から入れてるんだよ」



#### ✦ 「あの点々が無い?」

Bちゃん「大変だよ、この蛹、点々がなくなってきたる」

側に入ったCちゃん「カブトムシになってきている証拠じゃない?」

Bちゃん「うん…でも、息はできてるのかな?」

疑問をもち、さらによく観る。

Bちゃん「ここで動いているのは口かな?」

保育者「口ができていないの?」

Bちゃん「口で息したり、土を食べたりしてるんじゃない?」



#### ✦ 「あれ?色が違うよ」

2匹の幼虫が蛹になった。子どもたちは熱心に観察している。  
色が違うことに気付く。

Dちゃん「あれ?赤く…茶色くなってる!」

保育者「何でかな?」

Aちゃん「カブトムシになる準備をしているんだよ」

Dちゃん「オレンジになって、赤くなったら、カブトムシになるんじゃない？」



## ✦ 考察

子どもたちは、飼育している虫や飼育箱に起こる変化を見逃さず、見付けようという思いで興味を深め観察していることが把握できる。また、その変化に気付く子どもたちは、「何か理由があるだろう」という思いがあるので、疑問をもち言葉にするだけではなく、「なぜだろう？」と、考えたり知りたいという探求の思いをもったりしている。

保育者は、正しい情報や知識を伝えることではなく、子どもから出てくる言葉や行動に寄り添うことで、子ども自身、自ら興味や疑問をもち、探求を深める「科学する心」が育まれることが、やりとりの言葉から読み取れる。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム  
幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」